

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス姫神		
所在地	〒028-4132 盛岡市渋民字駅105番地		
自己評価作成日	令和6年12月13日	評価結果市町村受理日	令和7年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で生活をし、日常生活支援をご本人の希望・ニーズに合わせて支援したいと思っています。尊厳を大切に心から、ここで生活していて良かったと思っていただけるよう職員はゆっくり・笑顔を忘れずにケアをしていくことを目標にしています。一人ひとりに合わせたケアを行いここにいて楽しいと思われるような施設になる様に、職員自らが楽しんで業務出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市渋民地区のほぼ中心地にあつて、近隣には市役所支所や保育所、小学校、消防署、医療クリニック等があり、住宅地にも囲まれた恵まれた環境にある。事業所では、「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」という分かりやすい理念を掲げ、笑顔を絶やさずに利用者のペースにゆっくりと合わせたケアを心掛けている。コロナ禍を経て運営推進会議は集合開催を再開し、地域との交流も再開しつつあり、地域の婦人会による歌や踊りの訪問などもあつて、利用者の楽しみが増えている。また、敷地内の畑で収穫した野菜を、近くの子ども食堂に提供して交流を進めており、お互いの理解促進に繋げた地域貢献ともなっている。地区の自治会には、事業所の広報誌を回覧してもらつており、地域との連携や交流に意欲を持って取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ職員と管理者が共有することで利用者が良い暮らしを継続できるよう努力している。	令和3年に管理者と職員が話し合って理念を「ゆっくり、笑顔で、いつまでも」と見直している。職員のみならず、利用者にも分かりやすい理念とし、ホール内に掲示して周知するとともに、笑顔を絶やさずゆっくりとしたケアを心掛けるなど、日々のケアの実践に理念を活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	数年間感染症対策で付き合いが困難だったが、最近収穫祭を行ったり、地区のボランティア団体が来てくださり、その際には利用者様と会話をする場面が増えている。	コロナ禍で休止していた行事などを再開しており、収穫祭は運営推進会議と併催したり、家族を招いたりしている。また、近所の子ども食堂に事業所の畑で作った野菜を差し入れて交流を図っている。8月には地域の婦人部が来訪して歌や踊りを披露してくれ、利用者を楽しませてくれた。ホームの広報誌も地区で回覧してもらいホームの理解を進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は数回行われており、活動の報告はできている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見があった際には情報共有し、サービスの向上に努める。避難訓練時のアドバイスや、地域の情報等も収集することができ意見に対して向上するようにしている。	令和5年4月から、会議は集合開催としている。委員には自治会長や民生委員、家族代表、地域包括センター職員が参加し、バランスよい構成となっている。集合開催以降、委員からは避難訓練やコロナワクチンなどの話題が提供され、良い意見交換がなされている。さらに、地域の駐在所員を招いて防犯の話聞くなどの検討も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連絡を取り、事業所の特色を積極的に取り組んでいる。 総合支所が近隣にあるが、積極的に伝える等は困難。 詳しいことは市役所にと言う雰囲気があり相談しにくい。	地域包括支援センターでは運営推進会議に毎回出席し、事業所の状況を良く把握してもらっている。近所には市の総合支所があり介護保険申請手続き等の窓口となっている。市役所本庁の介護保険課にも、良く電話などで相談して連携を図っている。生活保護の受給者も入居しており、ケースワーカーが定期的に来訪している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にしていない。管理者の指導や身体拘束の内部研修で学習している。	身体拘束廃止委員会を3ヵ月に1回開催し、職員への研修も年に4回事例検討を主として行われている。スピーチロックについては、その都度、管理者が注意しておりミーティングの際にも話題にして改善に取り組んでいる。職員トイレに「気持ちの良いことばを使いましょう」と標語を掲示して意識化を図っている。転倒防止のベッドセンサーは家族の了解を得て2人が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三ヵ月に一度は虐待の内部研修を行い虐待防止の再認識を行うことで注意をしている。また、それが虐待と言われるなど見逃さないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加できてない。研修会が開催される際には管理者が積極的に受けていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	アセスメントをする際には利用者様との関係やご家族の不安を話しやすい環境を作り疑問について説明をおこなうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望がある方はごく一部であるが、季節の洋服やチェストの上に置く飾りを置いてほしいという声がある。また、利用者様からも要望があった際には、家族に伝えるが数える程度しかない。家族への状況報告書には担当者のコメントを載せるように改善している。	運営推進会議に参加してくれる家族から行事の評価や感謝の言葉を頂いている。面会で来訪する際に職員と話したり、居室担当者が日頃の利用者の様子などをまとめたお便りを月1回送付しているが、運営に係る意見等はあまり寄せられていない。今後は独自の職員アンケートの実施などを検討したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見やアイデアを大切にし、積極的に取り入れるようにしている。やってみて困難な事があればマニュアル変更を行い評価している。	職員からは、毎朝のミーティングや月1回のケア会議などにおいて、意見が出されている。バイタル測定者の変更など、個別のケアの内容に関する意見が多く出され業務改善に繋げている。職員との個別面談は、年に1回実施しており、プライベートな事柄も含めて話を聞ける良い機会となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な角度で評価を行い、本人の希望がある場合(パート職員になる)など働きやすい職場にしていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習、または本人希望でスキルアップしていく気持ちを汲み取っていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のでの管理者は月一回の会議で勉強会・資質向上のためのミーティングを開くようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に聞けない場合は、以前利用していた事業所に確認したり、どのようなサービスを行っていったらよいのかアセスメントを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は本人同様不安を感じている場合がある為、アセスメントをしっかりと行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困ったことやこれからはどうしたいのか様々な観点から判断するように 努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全員ではないが、施設で過ごしていることが家族が引け目を感じている場合もある。そんな時はこの施設での家族と言う意味合いの声掛けをすることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者の状態を確認したり、面会を希望することがある場合には、面会に来てくれる家族の気持ちも尊重しつつ、本人も支えらる様にケアをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、面会ができるよう支援をしている。	友人や知人の来訪は少ないが、親族や遠方の孫が訪ねてくることもある。また、ドライブの際に実家の付近を通って家族との関係が途切れないよう支援している。通院の際に、家族と一緒に外食を楽しんだり、自宅でお弁当を食べてきたりすることもある。理容は2カ月に1回の訪問理容を全員が利用しており、新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格やレベルを職員が把握することで、トラブルを防いだり、孤立することなく会話をし生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや要望があれば、その都度対応している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をし、本人の意向の把握に努め、本人がどうしたいの等気持ちを大事にする。最初は「何にもない」と希望を話さない方も、だんだんに話すこともある。	言葉で思いや意向を話せる方は3人ほどで、ゴミ袋が足りないとかドライブに行きたい、刺身を食べたいなどの希望が出され、可能な範囲で対応している。他の6人からは、話しかけても「何もない」、「いらない」との返事が多くなっており、職員はゆっくりと話し、仕草や表情から思いや意向を汲み取るよう心掛けている。	
----	-----	--	---	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような生活を送ってきたのか理解するようにしている。可能な限り馴染みのある生活を提案している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人に合わせて無理なく過ごして頂きようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフとの連携を取り意見が反映できるように見直しを掛けている。	計画作成担当者は、花巻市の本社のケアマネが担当しており、週1回来所して利用者の状態を把握している。入居後1～2か月の間は暫定的な計画とし、その後のケア会議で正式な計画を検討し決定している。介護計画は概ね6か月で更新している。モニタリングはホーム長が行っており、毎月のケア会議では全職員で内容を評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への日中の様子・特変があった際には記録し情報を共有することにする。ミーティングの際に意見がある場合には見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議や毎日のミーティング等で様々な視点からニーズを見つけ事業所での適応なサービスにつなげられるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源を把握し安全に暮らせるよう支援している。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	受診は基本は家族様対応だが、施設での対応 が今年になってから増えた。主治医に相談し、そ の後に専門医相談することがあるが、家族への 連絡をするようにしている。	ホームの利用者は浜民・玉山地区の出身者が多 く、かかりつけ医は入居前からのクリニックの受 診を継続している。家族が付き添っての通院は5 人であり、事業所で用意した「状況報告書」を持 参して受診している。各クリニックとの連携は良く 取れており、あまり不安はない。急変時は救急対 応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護師は不在の為、管理者の判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携室との情報交換や相談を行っている。 退院が早期に決まる際には専門職からのアドバ イスを聞きながら安心して帰所できるように連携 をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、区分変更で要介護度が高くなった 場合には早期の段階で家族と今後のことを相談 するようにしている。また、重度化に伴って、近隣 の特養の相談員とも情報交換を行うことにしてい る。	入居時に、看取りは行っていないことや重度化し た場合の対応について、本人や家族に説明し了 解を得ている。重度化の目安としては、浴槽を跨 ぐことが難しくなった場合や職員の声掛けや介助 の言葉が通じ難くなってきた場合などとし、その 場合には特養などへの住み替えを支援してい る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成している。勉強会は 定期的に行うようにしている。初期対応の部分は 勉強不足である。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は年2回行っている。職員も近隣に住んでいることも大きく、すぐに駆け付けられる等安心感はあるがどのような想定でも避難できるように継続していきたい。地域の協力体制はお願いをしている。	市のハザードマップでは、浸水や土砂崩れの想定区域になっていない。火災や地震想定避難訓練を年2回行い、6月には夜間想定訓練を日中に行っている。備蓄品は飲料水や食料を1週間分備えており、他に衛生用品やカセットコンロ等も備えている。	夜間想定訓練は、なるべく暗さを実感できる12月頃の薄暮時に実施するとともに、併せて避難誘導時の協力者を自治会等を通じて確保することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、尊厳を大事にする声掛けをしている。人生の先輩であり敬う心を持ち接するようにスタッフ間で対応している。	利用者へは「さん」付けで話しかけ、丁寧な言葉遣いを基本としている。トイレへの誘導はさり気なく小声で声掛けを行っている。失禁の際には汚物をエコバックに入れて他の利用者に分からないよう配慮しており、本人には落ち込まないように「大丈夫だよ」と声をかけ、尊厳を保てる対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者を思いを伝えられるように環境を作り、言葉の掛け方に注意をしている。選択ができるような声掛けをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位の暮らしを優先し個人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択肢を持てるように声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや片付けの他に出来る方には調理を手伝って頂くことが出来てきた。キッチンに立ち野菜を炒めたり切ったりすることもできている。	献立は、その日の夜勤職員が作成し、日勤職員が調理している。利用者は食材を切ったり盛り付けたり、茶碗拭きなどを手伝っている。敷地内の畑で採れた野菜も食材に加えて楽しんでいる。行事食ではお刺身や寿司、てんぷらなどを提供して喜ばれている。おやつ作りではホットケーキやへっちょこ団子などを職員と一緒に作り楽しんでいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表で把握し一人ひとりの好みに合わせた食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄を把握し、それに応じて声掛けや定時誘導を行っている	排泄チェック表も活用して声掛けと誘導を行っているが、ほとんどの利用者が自分でトイレに行き排泄できている。現在は、布パンツで自立が1人で、他はリハビリパンツとパッドの利用となっている。また、3人の利用者が、夜間にポータブルトイレを利用している。便秘気味の利用者は、乳製品を摂ったり、体を動かして便秘予防に努めている。排泄介助では利用者の尊厳を大切にした支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きちんと食べきちんと排泄ができる献立への気配りや、水分を多く摂取する等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りだが、一人ひとりの要望も取り入れるようにしている。「風邪気味だから明日にしたい」等の要望があれば応じている。	入浴は週2回を基本とし、ゆっくりと入れるよう40分程度を基本に1日3人ほどが入浴している。お風呂では気持ちが解放されるため、職員と1対1で昔話などで会話したり、歌を唄ったりして楽しんでいる。季節を感じられる柚子湯も提供している。異性介助の拒否や入浴を嫌がる利用者は、今はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自由に休息できるような環境も作っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との関係を保ち薬剤情報を理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた活動を行ったり工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は困難だが、ドライブに出かけたり散歩をしている。	夏場には玄関先に長椅子を並べて外気浴や体操を行い、近隣を散歩して気分転換を楽しんでいる。月に1、2回はドライブに出かけ、お花見や紅葉見物などを楽しんでいる。また、敷地内の畑作業にも2人ほどが取り組んでおり、収穫した野菜は近所の子ども食堂にも提供し、地域交流の一助としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は利用者様が電話をしたいとの要望はないが、要望があれば対応する。また、ご家族からの電話も同様に対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の部分は特に清潔を心がけており安全面にも気を配っている。ホールには季節に合ったものや掲示物を置き季節感を取り入れている。	全館床暖房であり、エアコンと併せてほんのり暖かい空間が保たれている。天窓からも明るい日差しが差し込んでいる。ホール内にはテーブル3台とソファと大型テレビなどが備え付けられている。壁面には季節を感じられる雛飾りの作品やイベントの写真なども飾られて、明るい雰囲気となっている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの居場所は、気の合った方と会話できるような空間を取り入れている。また自席の他にもゆっくりできるような談話室もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人から特に希望がないことが多いが、カレンダーを設置する、季節の物を飾る等、配慮している。季節の飾りを取り入れることで、居室での会話も増えてくる。	居室内は床暖房によって適温に保たれ、ベッドと大きめのチェストが備え付けられている。利用者は家族の写真や手作りの作品などを壁に飾り、使い慣れたテレビや椅子を持ち込んで、過ごしやすい空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中では居室の位置トイレの位置がわかる様に提示している。		